

しめのひとこと

志免町のいろんなひと、いろんなことをお伝えします！

27

ご縁をつなぎ 思いを実現

社会に貢献するとは

NPO法人
福岡終活・相続支援センター
みらいあん 事務局長

みと こうじ
三戸 浩司

幼少期から志免町で育つ。大学では法律を専攻。その後社会人として働きながら、保険、年金や社会保障などの知識を深める。45歳の時に自らの経験や学びを活かして地域に貢献していきたいと考え、2020年、みらいあん事務局長となり、現在4年目。

みらいあんは、居住支援・相続遺言・遺品整理・生前贈与・その他、様々な困りごとの相談支援や終活のお手伝いをしている法人です。



専門性を活かした社会貢献 改めて活動を考える

大学在学中に法律家を志し、卒業後も勉強は続けましたが20代後半で夢は諦めて、就職活動を始めました。社会人経験もなく苦労しましたが、法律を学んだ経験がプラスとなり、損害保険調査会社で調査員として働くことになりました。調査のため、事故被害者やそのご家族の気持ちを毎日聞いて受け止め続ける日々は、時に辛く感じることもありましたが。

しかし、何ヶ月もたって回復された後に被害者のご家族から「話を聞いてもらえてよかった。ありがたかった」と感謝の言葉をいただくことがあり、「何のために仕事をするのか」を考えるきっかけになりました。また調査を通じて相互扶助という保険の良さを知り、もっと多くの人に伝えたいと思い始めました。

調査員は3年勤めましたが、損害保険だけでなく他の保険についても勉強するため、生命保険の営業に転職しました。この頃は仕事の厳しさを知った時期でもあります。その後職業訓練給付の制度を利用して、ファイナンシャルプランナーの資格を取得し

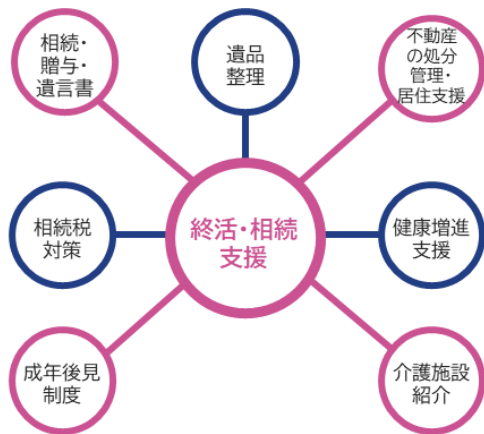
ました。資格取得後は日本年金機構で職を得て、年金についての知識を深めました。いつも、学びを活かし自分は何のために仕事をするのかを考えていました。30代半ばになって、今まで学んだ知識と経験を活かすため、もう一度保険の営業に戻りました。人と会って話すこと、学んだ知識をその人に役立ててもらうことが好きだと再認識したからです。2017年に保険業で独立開業して、現在7年目です。



「みらいあん」に関わるきっかけ コロナ禍に活動を再確認

2020年の秋頃は、コロナ渦で人と対面で会うことが困難で、本業の保険営業が難しい時期でした。同じころ父親の入院が5、6年目となり、終活について意識するようになりました。また私自身も45歳の節目を迎え、今までの自分の知識や経験を活かして地域貢献や社会貢献できないかと思い始めました。

その頃にみらいあんの理事長と知り合いました。理事長は不動産業を営んでいますが、日本福祉大学の出身で福祉への熱い気持ちを胸にNPO法人を設立された方です。その心意気にも惹かれ、事務局長が公募されると聞いて、応募し採用されました。



▲みらいあんの事業イメージ図（法人パンフを元に作成）

事務局長に就任したころはちょうどコロナ禍で、事業やイベントが中止されたので、理事長とじっくり話す機会を持ってました。今までのみらいあんの活動を振り返り、これからどうしていくかを一緒に考えることができました。また、会員の皆さんと改めてお会いして、これからのみらいあんの活動について丁寧に再確認し合う日々を続けました。

今思うと、この再確認があったから、現在多くの事業を実施できています。これは非常に良い時間の使い方だと思っています。

支援の対象を広げ、会員と協力し社会課題に取り組む

「すまい」は、人間が生活を営む中で一番必要なものです。住む、食べる、着るの最低限それさえ確保すれば、自立支援のサポートはできます。法人として高齢者支援を掲げ活動していましたが、2022年より「**住宅確保要配慮者居住支援法人**[※]」の団体指定を福岡県より受けて活動しています。居住支援活動では「今日食べるものや寝るところがない」という人が世代を問わず、相談スペース兼事務所を訪れています。高齢者だけでなく、実際は様々な年代の方が住宅確保要配慮者だとわかりました。

※住宅確保要配慮者の入居を拒まない賃貸住宅として登録された住宅(セーフティネット住宅)の入居者への家賃債務保証、住宅に係る情報提供・相談、生活相談・支援などを行う法人のこと

「終活・相続支援」と法人の名前にありますが、その前段階にも力を入れ、今では、健康増進支援や子どもに関する支援活動も実施しています。

法人設立間もなく視察した熊本のNPO法人で、多様な世代が集まり一緒に過ごし、食材を配布するだけの支援にとどまらない運営に影響を受けています。

理事長からは「相談を断ってはいけない」と言われています。「すでに色々な相談先で断られた人が、最後に行きつくところがみらいあんだと思わないさい」という意味です。みらいあんでは元看護師のスタッフが心のケアも含めた相談対応をされていて、連携する福岡県内の相談支援事業者からの相談も増えています。前述の元看護師のほか、不動産、保険、医療そして福祉分野などの専門性を持つ会員がいて、左上図のように関連する支援ができます。これは、みらいあんの強みだと思います。

志免町で身近な課題について考える

みらいあんの活動の原点は、高齢者支援です。私は桜丘在住ですが、ご近所の団塊の世代の方々を見ていると、買い物に行けないことは今後の課題となりそうです。またスマホが年齢を問わず必要になる時代になりました。志免町でも専用アプリ等で予約手続きを行うオンデマンドバスが令和6年3月から開始されます。志免町に住む人が様々なサービスと繋がるために、スマホに関するお悩みに寄り添うような支援が、今後ますます必要になると思います。住むこと、食べること、そして通信手段の確保です。志免町でも医療や福祉の専門家と繋がり、地域の特色をよく知った方のご縁もいただいて、地域ごとにもみらいあんのような仕組みが展開できればと考えています。

取材を終えて

地域貢献や社会貢献について、考えたことはありますか。自分の強みや専門性を発揮しボランティアやNPO活動に参加する人がいます。三戸さんは人のご縁を活かし、みらいあんの活動に事務局長として関わっています。複雑な社会課題に、様々な分野の専門家同士が協力し、プロジェクトを通じて社会貢献をする姿が見えました。

